

熊谷崇先生の本を読んで

つきやま歯科医院 総合診療部 歯科衛生士 松尾 早苗

内容は、カンブリア宮殿とプロフェッショナルで放送されたものと同じような感じでしたが、本では日吉歯科が行っていることが患者目線で書かれていて詳しい情報を知ることができました。印象に残った部分は、熊谷先生は毎日一番に診療室へ入り5時半にエアコンをつけているという事実でした。院長の役割は、スタッフがいかに仕事をしやすい環境をつくれるかということだとかかかれていました。診療以外のことにも目を向け、スタッフを大事にしているということが伝わってきました。

本を読んで改めて感じたことは、日吉歯科に通院する人、酒田市の人々のデンタルIQとモチベーションの高さでした。高齢でも歯が多く残っていて、健康な歯で食事ができるということにとっても喜びを感じているようでした。私は日々の診療で、高齢で何不自由なく食事ができる人にまだ出会ったことがありませんが、予防の輪を広げて将来的に高齢になってもおいしく噛める人が増えることを願っています。

往診では、高齢で残存歯が少なく認知もあって口から栄養をとることができないひとが何人かいます。そういう人たちにとって口腔清掃をしてあげることがとても大事だと思いますが、何より、そうならない為に早くから予防に目を向けることが重要なのだと考えます。酒田市では、診療室だけで予防の輪を広げるのではなくて学校や、企業とも連携して、教育やメンテナンスが受けやすいような環境を作っているということに、改めて感心しました。学校などの現場では、歯科医師や歯科衛生士が主体で教育するのではなく学校の教師が歯科保健指導をしているということに驚きました。大人も含め、学校主体で予防を取り入れているのだと感じました。

最後にこの本を読んで、自分の中で予防は大事だと心構えをもっているつもりですが、日吉歯科での取り組みをしって、よりそれが高まったように感じました。